

学校経営計画に沿って、全教育活動に取り組みます。
 学校評価 総括評価表の下位組織レベルの重点目標は、学校重点目標の実現に向け、当該年度に、特に重点的に取り組む目標です。

令和5年度 学校評価 総括評価表

徳島県立ひのみね支援学校

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と 今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
		評価指標	評価指標の達成度	総合評価	
小 学 部	【学校目標】 1) 学習指導の充実	①-1 「国語」(合科)の目標設定や授 業づくりの視点が明確になったと 80%以上の教員が回答する。		(評定)	
	【下位組織レベル】 ① 重複障がいのある児童 の実態に応じた国語科教 育の充実を目指す。	①-2 2.3 学期の個別の指導計画の国 語の評価において 90%以上が達成 となる。		(所見)	
		活動計画	活動計画の実施状況		
		①-1 学習到達度チェックリスト(S スケール)を活用して、児童の実 態把握をし、グループや学部の教 員集団で共有する。			
		①-2 2.3 学期の短期目標に国語科の学 習指導要領の目標・内容の一覧(小 学部知的障害である児童生徒に対 する教育を行う特別支援学校の各 教科)を活用し、個々の児童の目 標の妥当性や学習内容(年間指導 計画)についてケース会で確認す る。			
	①-3 学部会で国語科の目標に沿った 授業実践の報告会を3回する。				

【「総合評価」における「評定」の基準】 A：十分達成できた、 B：概ね達成できた、 C：達成できなかった

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と 今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
中 学 部	【学校目標】 1) 安心安全な学校づくり	評価指標	評価指標の達成度	総合評価	
		① 学部教員へのアンケートで、80%以上が学部生徒の緊急対応について「共通理解が図れている」と回答する。		(評定)	
	【下位組織レベル】			(所見)	
	① 生徒の実態に即した緊急時対応について教員間の共通理解を図るとともに、修学旅行等の行事を安心・安全に計画・実施する。	② 修学旅行アンケートで、教員、(同行するセンター職員)、保護者の80%以上が「安全な実施にむけて準備(共通理解等を含む)ができていた」と回答する。			
		活動計画	活動計画の実施状況		
		①-1 学部会で、生徒の発作や医療的ケア等の配慮事項に関し情報共有を図る。			
		①-2 医療的ケアが3つ以上等、緊急性の高い生徒について緊急時対応マニュアルを作成し、学部会で周知する。			
	①-3 緊急性の高い生徒を対象とした緊急対応訓練を実施し、具体的な対応を確認する。				
	②-1 修学旅行参加生徒について、医療的ケアを含めた24時間の配慮事項を一覧表にして、引率教員間等で共通理解を図る。				
	②-2 修学旅行見学先や宿泊先の消防署や総合病院と連絡を取り、緊急時対応マニュアルを作り、引率教員間等で共通理解を図る。必要に応じて個別の緊急対応マニュアルを作成する。				
	①-4 ②-3 緊急対応訓練後や修学旅行実施後にアンケートを実施し、今後の課題等をまとめる。				

【「総合評価」における「評定」の基準】 A：十分達成できた， B：概ね達成できた， C：達成できなかった

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
		評価指標の達成度	総合評価		
高等部 【学校目標】 1) 教職員の専門性の維持向上と学校組織力の強化 【下位組織レベル】 ① 卒業後の生活に向けて、授業等の工夫や改善を図り、進路指導を充実する。	① 卒業後の生活に向けた授業実践 や支援を各ホームルームで取り入れる。		(評定)		
	② 年度末のアンケートにおいて、卒業後の生活に向けた実践を通して「進路に向けた取り組みができた」と教員及び保護者から 80%以上の回答を得る。		(所見)		
	①-1 学部会やケース会を活用し、個々のニーズや進路先について年2回以上教職員間で共通理解を図る。				
	①-2 卒業後の生活につながる目標を個別の指導計画に1つ以上明記する。				
	①-3 記録(写真・動画、日誌等)を通して実践をふり返り、進路について意識づけを図る。				
	①-4 施設見学や実習、進路研修会を通して、進路に向けての意識を強化する。				
② 1月に進路に関する実践についてのアンケートを実施する。					

【「総合評価」における「評定」の基準】 A：十分達成できた， B：概ね達成できた， C：達成できなかった

自己評価			学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
総務課	【学校目標】 1) 安心安全な学校づくり 【下位組織レベル】 ① 災害時における安全な避難態勢の整備を行う。	評価指標 ① 校内防災研修において、徳島赤十字ひのみね医療療育センターのスロープが使用できない場合、全員が2階への避難をする想定での演習（訓練）を実施する。	評価指標の達成度 (評定) (所見)	
		活動計画 ①-1 スロープが使用できない時の対応チェックシートを作成し、夏休み中に各児童生徒の対応方法を各クラス毎に検討して記入するよう周知する。	活動計画の実施状況	
	①-2 9月に校内防災研修を実施する。児童生徒を安全に2階へ避難させるために、児童生徒が車椅子等に乗っている想定で担ぎ上げる演習（訓練）を実施する。			
	①-3 研修においてチェックシートを元に、想定する児童生徒を各学部で決め、2階へ避難するために必要な一人あたりの時間を計測する。全員が2階へ避難するために必要な時間を概算する。			
	①-4 アンケートなどで課題点や改善点を把握し、スロープが使用できない場合の避難態勢の改善策に取り組む。			

【「総合評価」における「評定」の基準】 A：十分達成できた， B：概ね達成できた， C：達成できなかった

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と 今後の改善方策	
重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見		
教 務 課	【学校目標】 1) 学習指導の充実 【下位組織レベル】 ① 児童生徒の実態に応じた教科指導等の充実を図る。	評価指標	評価指標の達成度	総合評価		
		① 国語科(3, 4コース)の授業に		(評定)		
		ついて、それぞれの児童生徒の実態に応じた学習評価ができた、概ねできたと教員の80%以上がアンケートで回答する。		(所見)		
		活動計画	活動計画の実施状況			
		①-1 研究課と連携し、外部講師を招き学習評価についての研修会を行う。				
①-2 2・3学期の国語科の授業で、児童生徒の実態に合った学習評価について学級やグループで検討し、授業で取り組む。						
①-3 学年末に、個に応じた学習評価について教員アンケートを実施する。						

【「総合評価」における「評定」の基準】 A：十分達成できた， B：概ね達成できた， C：達成できなかった

自己評価			学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見		
		評価指標の達成度	総合評価		
研究	【学校目標】 教職員の専門性の維持向上と学校組織力の強化	① 「自立活動実践シート研修（指導計画）で学んだことを、自立活動実践シートの作成時に活用することができた」と受講者の80%以上の教員が回答する。	(評定)		
		② 「外部専門家による自立活動研修で学んだことを、自立活動の指導時に活用することができた」と受講者の80%の教員が回答する。	(所見)		
研究 課	【下位組織レベル】				
	① 「自立活動実践シート研修（自立活動の指導計画）」と「外部専門家による自立活動研修」を通して自立活動に関する専門性を高める。	活動計画	活動計画の実施状況		
	*自立活動実践シートは、自立活動の指導計画のことである。	①-1 自立活動実践シート研修前に今年度の「自立活動実践シートの作成」を配付する。			
		①-2 自立活動実践シート研修を講義と演習形式で3回実施する。			
		①-3 自立活動実践シート研修時に作成済みの児童生徒の自立活動実践シートを研修資料として用いることで、再検討する。			
		②-1 臨床心理士や理学療法士を講師に招いた研修を、講義と実技形式で1回ずつ実施する。			
		②-2 理学療法士を講師とする研修では、2名の児童生徒に対して行い、講師の指導方法を見て学ぶ。			
②-3 研修内容を授業に活用できるように研究課員のサポートを2学期にのべ10回以上受けられるように支援する。					

【「総合評価」における「評定」の基準】 A：十分達成できた， B：概ね達成できた， C：達成できなかった

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と 今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
人 権 進 路 課	【学校目標】 1) 安心安全な学校づくり	評価指標	評価指標の達成度	総合評価	
		① 日々の教育活動において、人権の視点を確認できる取組を月1回以上遂行する		(評定)	
	【下位組織レベル】	② 児童生徒、保護者のニーズに応じた進路選択に向けて、関係機関との連携、情報提供等を年間通して行う。		(所見)	
	① 人権教育の視点を学校全体で確認し、一人ひとりを大切にする教育活動を展開するとともに、生徒に応じた進路選択へつなげていく。				
	活動計画	活動計画の実施状況			
	①-1 人権の日に、さん付け呼称、人権教育年間指導計画の取組遂行の呼びかけ等を行う。				
	①-2 スクールカウンセラーと連携し、自分やまわりの人を大切にするヒント等を発信する。				
②-1 保護者対象の施設見学、教員対象の進路研修会の機会を持ったり、情報発信したりする。					
②-2 児童生徒の実態を考慮しつつ、担任と共通理解のもと進路学習や進路先の開拓等を行う。					
②-3 進路指導担当が高等部生徒保護者との面談の機会を年間2回以上持つ。					

【「総合評価」における「評定」の基準】 A：十分達成できた， B：概ね達成できた， C：達成できなかった

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と 今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
特別 活動 課	【学校目標】 1) 家庭・地域・学校が一体で取り組む教育の推進	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定)	
		① 地域や県主催のイベント等への参加及び企画を3つ以上実施する。		(所見)	
	【下位組織レベル】	活動計画	活動計画の実施状況		
	① 児童生徒の実体験の機会を増やす。	①-1 演奏会や演劇等の案内から、本校児童生徒が参加可能か精査する。			
		①-2 参加に向けて校内への呼びかけをし、内容や参加の仕方、日程等の調整をする。			
	①-3 参加及び企画するイベントを保護者への案内やホームページ等で知らせ、実施後は取り組みをホームページにて発信する。				
	①-4 児童生徒のイベントへの参加が難しい場合は、映像等による代替方法を準備する。				

【「総合評価」における「評定」の基準】 A：十分達成できた， B：概ね達成できた， C：達成できなかった

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と 今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
支 援 課	【学校目標】 1) 教職員の専門性の維持 向上と学校組織力の強化	評価指標	評価指標の達成度	総合評価	
		① 巡回相談において、1事例あたりの相談活動を充実させるため、複数回巡回できる学校や園が5割を超える。		(評定)	
	【下位組織レベル】	② 保育所等に対し、PBS（ポジティブな行動支援）に係わる指導・助言など実践に繋がる相談を、4校（園）以上で実施する。		(所見)	
	① 県下の特別支援学級や保育所などの教育充実に向けた教育相談および研修を行う。	活動計画	活動計画の実施状況		
		①-1 相談内容に係わる書籍や教材教具等を持参し、具体的な実践例を紹介する。			
		①-2 相談後シートを活用し、1回目の取り組みを確認する。電話連絡で状況を把握し、2回目以降の相談に繋げる。			
	②-1 相談前シートや巡回時に、相談対象児（生徒）およびクラス全体の様子や状況を確認する。				
	②-2 必要に応じて、相談対象児（生徒）の担任および教職員全体に対し、PBS研修を実施する。				

【「総合評価」における「評定」の基準】 A：十分達成できた， B：概ね達成できた， C：達成できなかった

自己評価			学校関係者評価	次年度への課題と 今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
保健環境	【学校目標】 1) 安心・安全な学校づくり 【下位組織レベル】 ① 医療的ケアの緊急時や災害時対応の徹底を図る。	評価指標 ① 教員・養護教諭・学校看護師、センターの医師やコーディネーターと連携・協働し、緊急体制を見直し、新たな緊急対応マニュアルや流れ図を作成する。	評価指標の達成度 総合評価 (評定)	
		② 医療的ケア児の災害時の避難方法について、個々の緊急対応マニュアルに追記する。		
		③ 総務課と連携・協働し、災害時の医療的ケア児に必要な防災カードを作成する。		
		活動計画 ① - 1 校内放送を取り入れた緊急対応マニュアルや流れ図(案)を提案し、センターの医師やコーディネーターと検討する。	活動計画の実施状況 (所見)	
		① - 2 案を元に緊急対応訓練を実施し、反省や課題をまとめて、更新する緊急対応マニュアルや流れ図に取り入れる。		
		② - 1 総務課の医療的ケア児の対応策チェックシートやかきあげ訓練を通して避難するときに必要なことについて個々の緊急対応マニュアルに追記できるようにする。		
③ - 1 医療的ケア児が使用している機器の内蔵バッテリーの作動持続時間などの調査を行い、災害時の停電に備えて電源が確保できるように準備する。				
③ - 2 総務課と連携・協働し、防災カード裏面の医療的ケア表に必要な項目を加えて、防災カードを作成する。				

【「総合評価」における「評定」の基準】 A：十分達成できた， B：概ね達成できた， C：達成できなかった

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と 今後の改善方策	
情報 課	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見		
		評価指標	評価指標の達成度		総合評価	
	【学校目標】 1) GIGA スクールの推進 【下位組織レベル】 ① ICT 機器の活用とアシス ティブテクノロジー（以 下、AT）の導入を推進し、 児童生徒の学校生活 QOL 向上に貢献する。	① 学校生活及び家庭生活における ICT・AT を活用したソリューションを提供する。	① 児童生徒、教員、保護者等の相談やリクエスト等に応じて、解決の一助となるよう ICT・AT を活用した教材・デバイス、リソース等の提案・提供を行う。	(評定)		
				(所見)		
		活動計画	活動計画の実施状況			
		①-1 本校の児童生徒に応じたデジタル教材の作成方法やノウハウをリソース化する。				
	①-2 授業で ICT を活用するための入力デバイスや教材の考案・提供を行う。					
	①-3 ICT・AT 活用を通じた支援の在り方について研修（OJT を含む）を実施する。					
	①-4 クラス担任や保護者、児童生徒、または各分掌の相談等に個々に応じ、協働して解決策や教材教具開発を実施する。					

【「総合評価」における「評定」の基準】 A：十分達成できた， B：概ね達成できた， C：達成できなかった